

福島の小児甲状腺がんの発生率は  
チェルノブイリと同じかそれ以上である可能性があります  
～福島県県民健康管理調査結果に対する見解～

松崎道幸

(北海道反核医師の会運営委員)

2013年2月15日

(この見解は暫定的なものでありますが、事態が深刻であると考え、多くの人に見ていただき、共に考える材料としたいと思います。広く拡散下さい)

1995年に山下俊一氏、長瀧重信氏らが共同著者となった論文がThyroidという医学雑誌に発表されています。

これは、事故時10才以下だったチェルノブイリ周辺の約5万人の子どもたちを対象に、事故から5～7年後に甲状腺超音波検査を行った結果を報告したものです。

径5ミリ超の甲状腺病変を超音波検査で検出し、穿刺細胞診検査などで確定診断を行った結果、

1万4千人に1人の甲状腺がんが発見されました。高汚染地域では4千5百人に1人見つかりました。

ところで、今回、福島県の健康管理調査で、18才以下の子どもたち3万8千人の甲状腺超音波検査で、3名の甲状腺がんが発見されました。

しかもこのほかに甲状腺がんの疑いのある子どもさんが7名おられるということです。

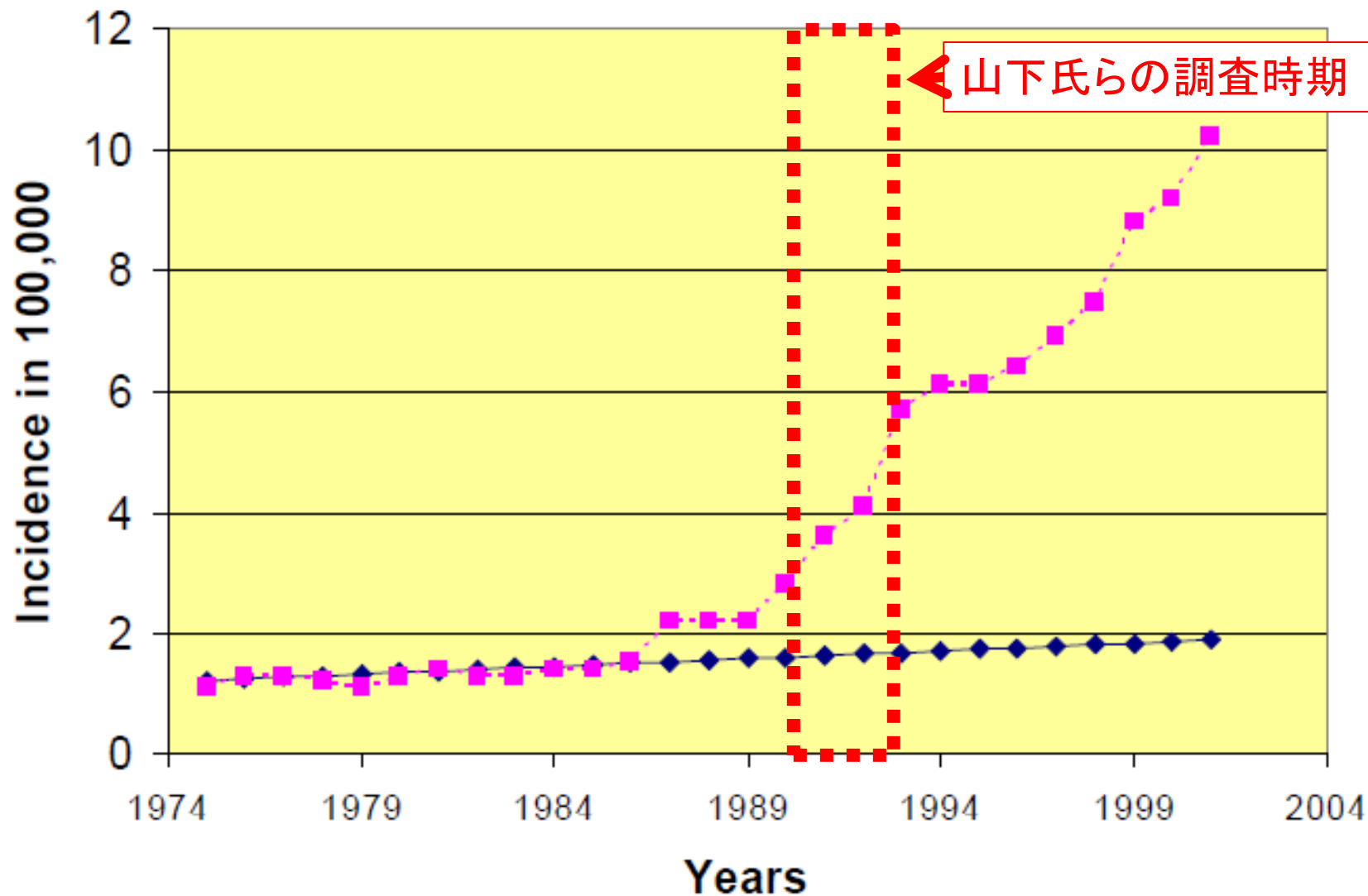
原発事故から2年も経たないうちに、チェルノブイリ事故の数年後と同じかそれ以上の率で甲状腺がんが福島の子どもたちに発生している可能性があると考えざるを得ない結果です。

ちなみに、山下氏らの調査が行われたのは、小児甲状腺がんの激増が明らかになった時期です。

2003年3月9日  
今中哲二: Malko  
講演会の概要とコメントより

図2 ベラルーシにおける甲状腺ガン発生率の変化  
1975-2001

—◆— expected    - - - ■ - - - observed



← 山下氏らの調査時期

Ito M, Yamashita S, Ashizawa K, Namba H, Hoshi M, Shibata Y, Sekine I, Nagataki S, Shigematsu I. Childhood thyroid diseases around Chernobyl evaluated by ultrasound examination and fine needle aspiration cytology. *Thyroid*. 1995 Oct;5(5):365-8.

Screening by ultrasound examination and fine-needle aspiration cytological biopsy (FNA) was conducted in five regions in Belarus, Ukraine, and Russia to investigate the prevalence of childhood thyroid diseases around Chernobyl. Gomel, Zhitomir, Kiev, and the western area of Bryansk are the administrative regions where severe radioactive contamination occurred. The subjects from Mogilev, where contamination was relatively low, served as controls. Among 55,054 subjects (26,406 boys and 28,648 girls), the prevalence of ultrasonographic thyroid abnormalities such as nodule, cyst, and abnormal echogenity was significantly higher in the regions with severe contamination than in Mogilev. Of the 1,396 children showing echographic thyroid abnormalities 197 were selected for FNA, and a sample was successfully obtained for diagnosis from 171 (51 boys and 120 girls) of the 197 subjects. The aspirate was insufficient for diagnosis in the remaining 26 subjects. Thyroid cancer was encountered in four children (2.3%) from the contaminated regions, two children being from Gomel. The other thyroid diseases were follicular neoplasm, 6.4%; adenomatous goiter, 18.7%; chronic thyroiditis, 31.0%; and cyst, 24.0%, suggesting that a major cause of thyroid nodularity is nonneoplastic changes, mainly chronic thyroiditis and cysts. These results will serve as an important data base for further analyses and suggest that childhood thyroid diseases, including both neoplasms and immunological disorders, are consequences of radioactive fallout. PMID: 8563473

# 調査地域

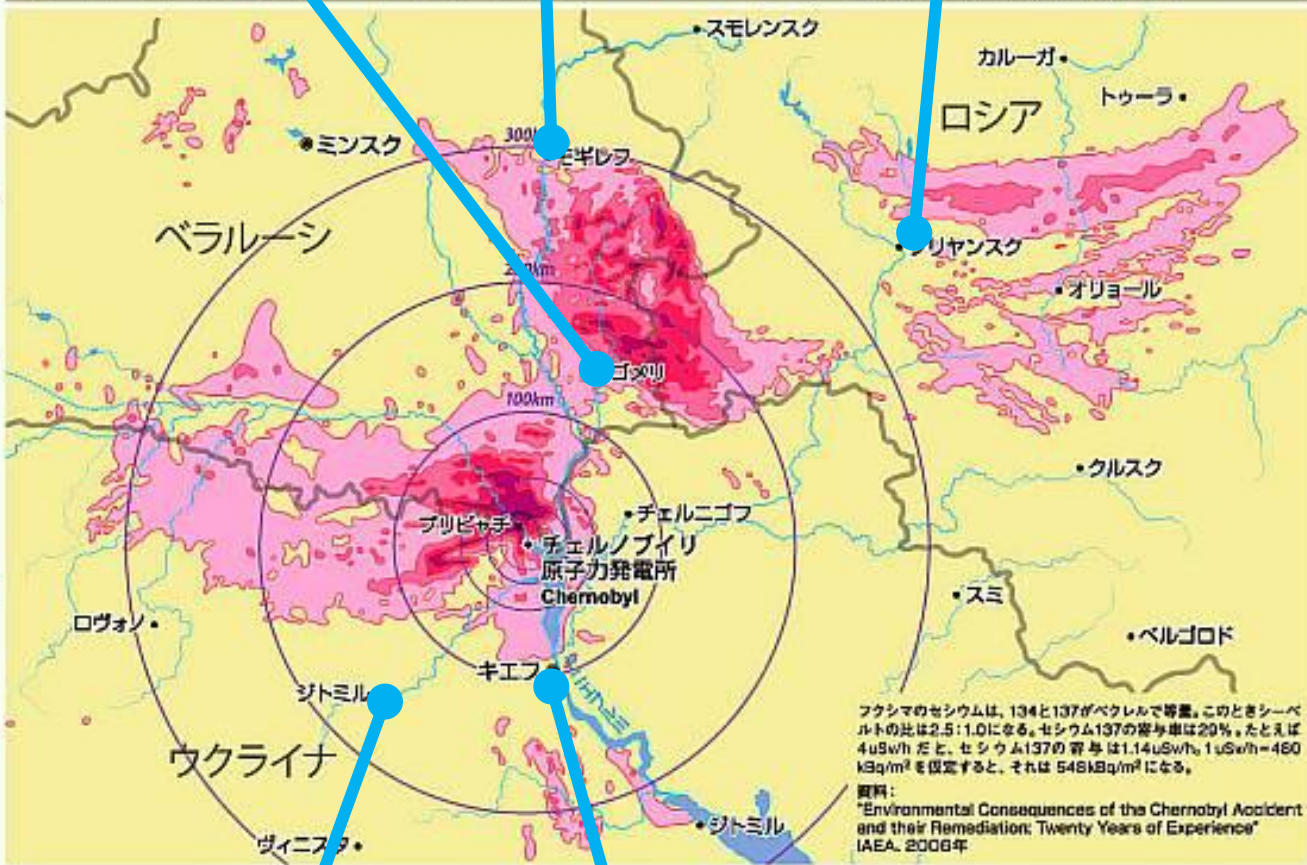
ゴメリ

モギレフ

ブリヤンスク

## フクシマとチェルノブイリの比較

著者：早川由紀夫(群馬大学) klpuka.blog70.fc2.com  
By Yukio Hayakawa, Gunma University



フクシマのセシウムは、134と137がベクレルで等量。このときシーベルトの比は2.5:1.0になる。セシウム137の寄与率は20%。たとえば4 $\mu$ Sv/hだと、セシウム137の寄与は1.14 $\mu$ Sv/h、1 $\mu$ Sv/h=480kBq/m<sup>2</sup>を固定すると、それは548kBq/m<sup>2</sup>になる。  
資料：  
"Environmental Consequences of the Chernobyl Accident and their Remediation: Twenty Years of Experience"  
IAEA, 2006年

日本(左図)	~8 $\mu$ Sv/h	8~4 $\mu$ Sv/h	4~1 $\mu$ Sv/h	1~0.25 $\mu$ Sv/h	0.25~0.125 $\mu$ Sv/h	0.25未満
チェルノブイリ(上図)	3700~1480kBq/m <sup>2</sup> 居住禁止区域	1480~555kBq/m <sup>2</sup> 移住必要区域	555~185kBq/m <sup>2</sup> 移住有利区域	185~37kBq/m <sup>2</sup>	(日本のみ)	37kBq/m <sup>2</sup> 未満

ジトミル

キエフ

改訂版 2011年12月9日(初版4月15日)  
この地図の作成には、文部科学省科学研究費補助金「インターネットを活用した情報共有による新しい地学教育」(番号23501007)を使用しました。  
地図製図：坂藤征和子(TURIE graphics)

早川由紀夫先生の作成された地図を参考にさせていただきました

# 事故時0～10才だったチェルノブイリ周辺の子どもたちに、事故から5～7年目に詳しい甲状腺超音波検査を行った山下チームの調査結果

地域	汚染度	検査人数	甲状腺がん
モギレフ	やや低	12,285名	0名
ゴメリ	高	8,949名	2名
ブリヤンスク	低	12,147名	0名
キエフ	低	10,578名	1名
ジトミル	低	11,095名	1名
合計		55,054名	4名

小児甲状腺がんが1万人当たり0.7人(13,763人に1人)発見された。高汚染地域のゴメリでは4千5百人に1人が甲状腺癌がんだった。

福島の18才以下の子ども**3万8千人**中**3名**が**甲状腺がん**、さらに**7名**が**疑いあり**



**1万3千人に1人** = 数年後のチェルノブイリと同じかそれを上回る**恐れあり**(**疑い例ががんだったなら3千8百人に1人**)

新たに2人が甲状腺がん 福島の18歳以下

2013/2/13 13:01

日本経済新聞

東京電力福島第1原発事故による放射線の影響を調べている福島県の県民健康管理調査の検討委員会が13日、福島市内で開かれ、18歳以下の2人が新たに甲状腺がんと確定したと報告された。昨年9月に判明の1人と合わせ、3人となった。

福島県立医大の鈴木真一教授は「甲状腺がんは最短で4～5年で発見というのがチェルノブイリの知見。今の調査はもともとあった甲状腺がんを把握している」と述べ、同原発事故による放射線の影響を否定した。

3人のほかに7人ががんの疑いがあるとして、県立医大が検査を続けている。甲状腺検査は震災当時18歳以下が対象。2011年度に1次検査を約**3万8千人**を対象に実施した。

2次検査で細胞検査が必要とした76人のうち、**10人にがんの疑いがあるとされ、このうち3人が甲状腺がん**と判明した。〔共同〕



福島の子どもたちの健康が本当に心配です。  
放射線の被害を防ぐために、共に考え、共に行  
動しましょう。